

2019年3月期 第3四半期 説明資料

株式会社高松コンストラクショングループ


証券コード:1762

2019年2月13日

業績(連結)の推移

1. 受注高: 対前期 17.3%増。過去最高。
2. 売上高: 対前期 0.9%減。高松建設単体の着工時期の遅れが大きい。
3. 利益: 上記に加え、青木あすなろ単体の前期の高採算建築案件の反動減などにより売上総利益が減。
両グループともに販管費が上昇したことも要因となり、対前期で営業利益は33.3%減。同様に経常利益は33.1%減、当期利益は33.0%減。

単位: 億円

項目	2018/3期 Q3	2019/3期 Q3	増減率(%)
受注高	1,859	 2,180	+17.3%
売上高	1,765	1,748	△0.9%
売上総利益 (売上総利益率)	236 (13.4%)	224 (12.9%)	△4.7%
営業利益 (営業利益率)	89 (5.1%)	59 (3.4%)	△33.3%
経常利益 (経常利益率)	89 (5.1%)	59 (3.4%)	△33.1%
親会社株主帰属四半期純利益 (四半期純利益率)	47 (2.7%)	32 (1.8%)	△33.0%

グループ別 受注高・売上高・営業利益（連結）

1. 受注高は17.3%増の2,180億円。建築は青木あすなろが好調(大型団地・PFI)、大幅増。土木はQ3で盛り返し前年並。
2. 売上高は0.9%減の1,748億円、土木+0.6%、建築 △7.7%。高松Gは+1.7%、青木あすなろGは土木増、建築減で2.8%減。
3. 営業利益は29億円減の59億円。青木あすなろGの減が△23億円(建築△8億円、土木△10億円、他△5億円)。

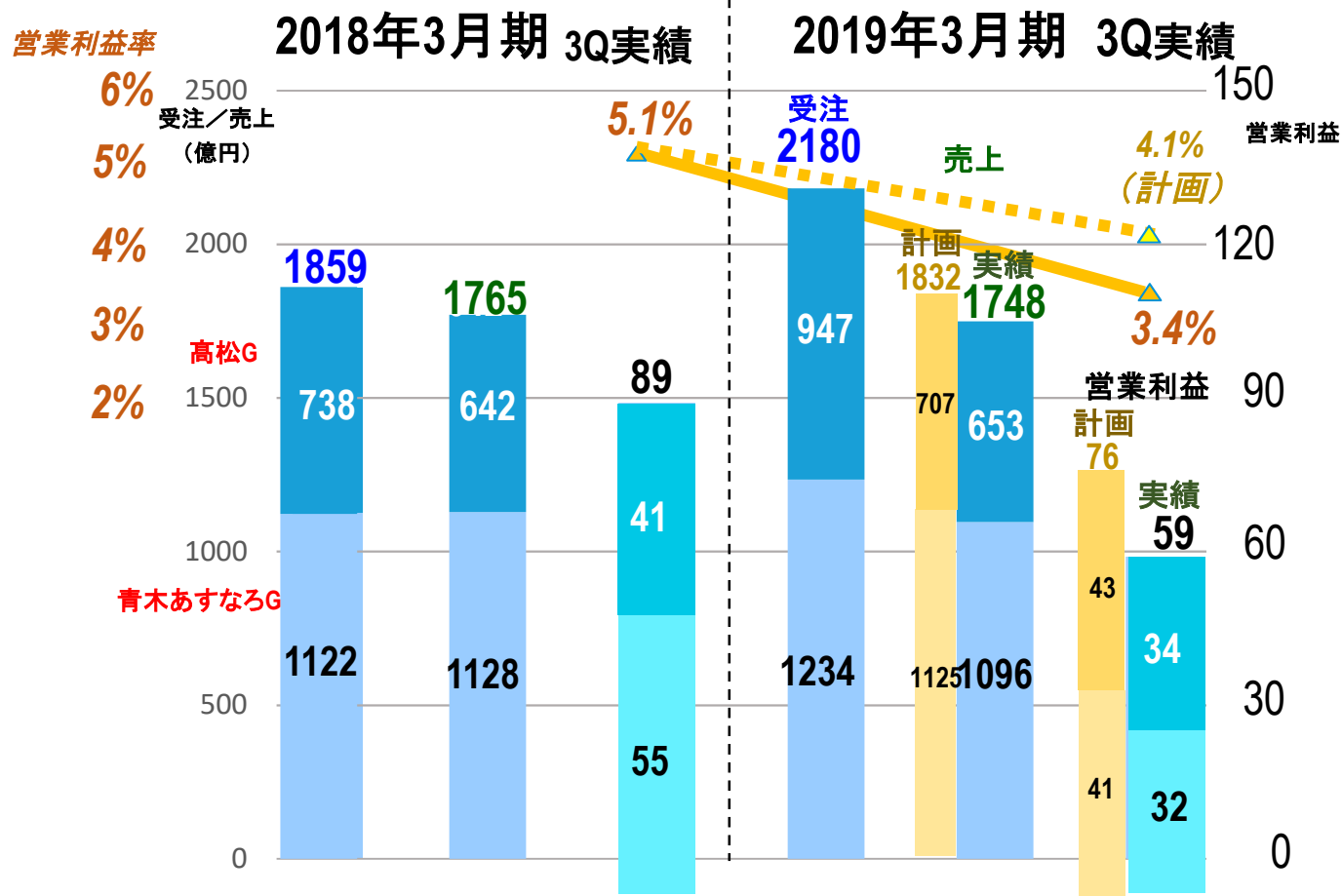
高松G		青木あすなろG		受注高	売上高	営業利益
高松G		青木あすなろG		18/12	18/12	18/12
高松G		青木あすなろG		(17/12)	(17/12)	(17/12)
高松建設 高松テクノサービス(大阪) 高松テクノサービス(東京) 住之江工芸 JPホーム 金剛組 中村社寺 ミフコーポレーション U.S.C.A. エステート(大阪) エステート(東京)		島田組 新潟みらい建設 あすなろ道路 東興シオテック 青木マリン 建設工業みらい エムエス 青木あすなろ建設		844 (844) +0.0%	795 (790) +0.6%	39 (49) △21.1%
702 437 20		185 161 11		1,168 (890) +31.1%	785 (851) △7.7%	36 (55) △34.7%
738 629 15		※各社受注高(億円) ※各社売上高(億円) ※各社営業利益(億円)		168 (124) +35.5%	168 (124) +35.5%	10 (8) +31.3%
受注高 18/12 (17/12)	947 (738) +28.2%	1,234 (1,122) +9.9%	2,180 (1,859) +17.3%			
売上高 18/12 (17/12)	653 (642) +1.7%	1,096 (1,128) △2.8%	1,748 (1,765) △0.9%			
営業利益 18/12 (17/12)	34 (41) △17.5%	32 (55) △41.2%	59 (89) △33.3%			

受注高・売上高・営業利益の推移 (連結)

1. 受注 : 過去最高の第3四半期受注額。高松G、青木あすなるGともに伸長。
2. 売上高 : 対前期微減、高松G伸びるもミブのM&Aなかりせば減少。青木あすなるG減少。
3. 営業利益 : 対前期△29.7億円。高松G△7.2億円、青木あすなるG△23.0億円。

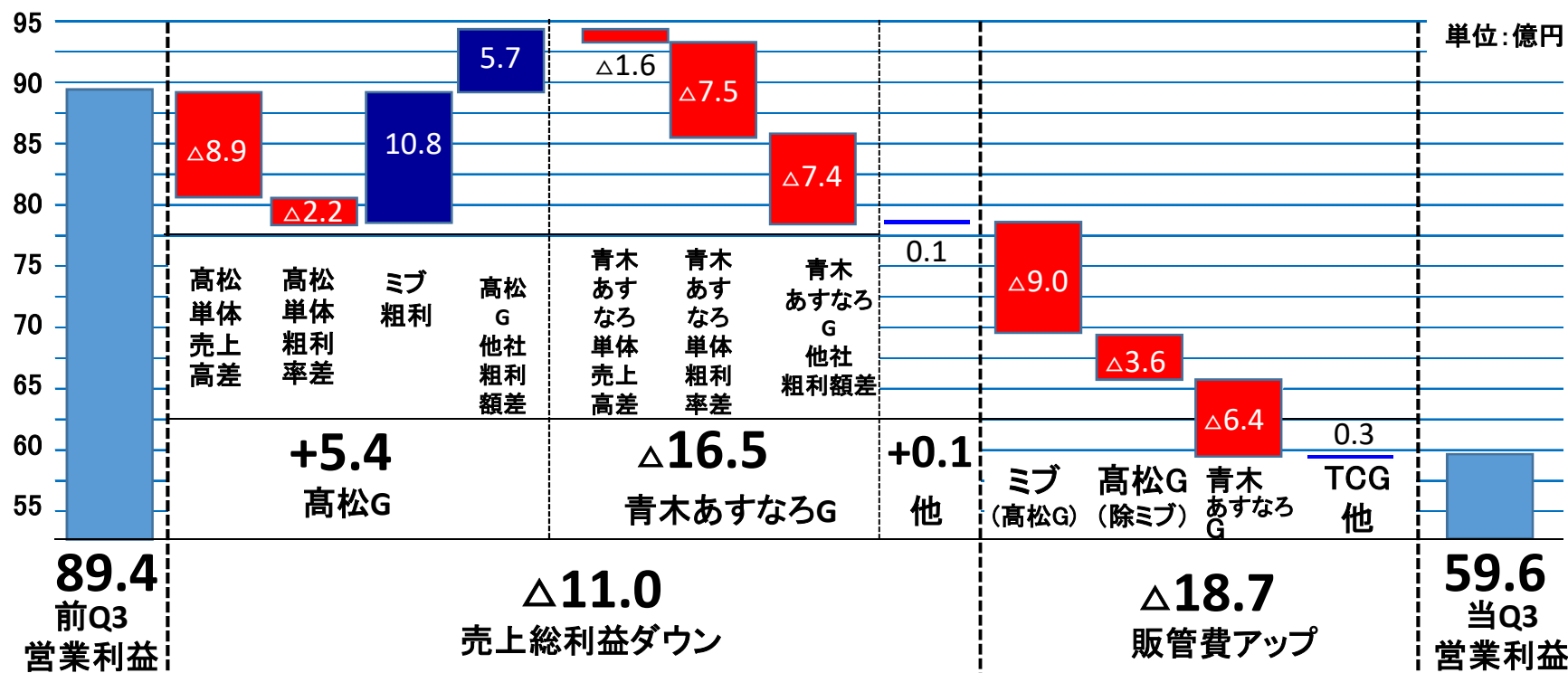
計画の76億円に比べ△17億円、高松G△9億円、青木あすなるG△9億円。

4. 営業利益率 : 計画の4.1%を下回る3.4%。前年実績の5.1%を1.7pt下回った。



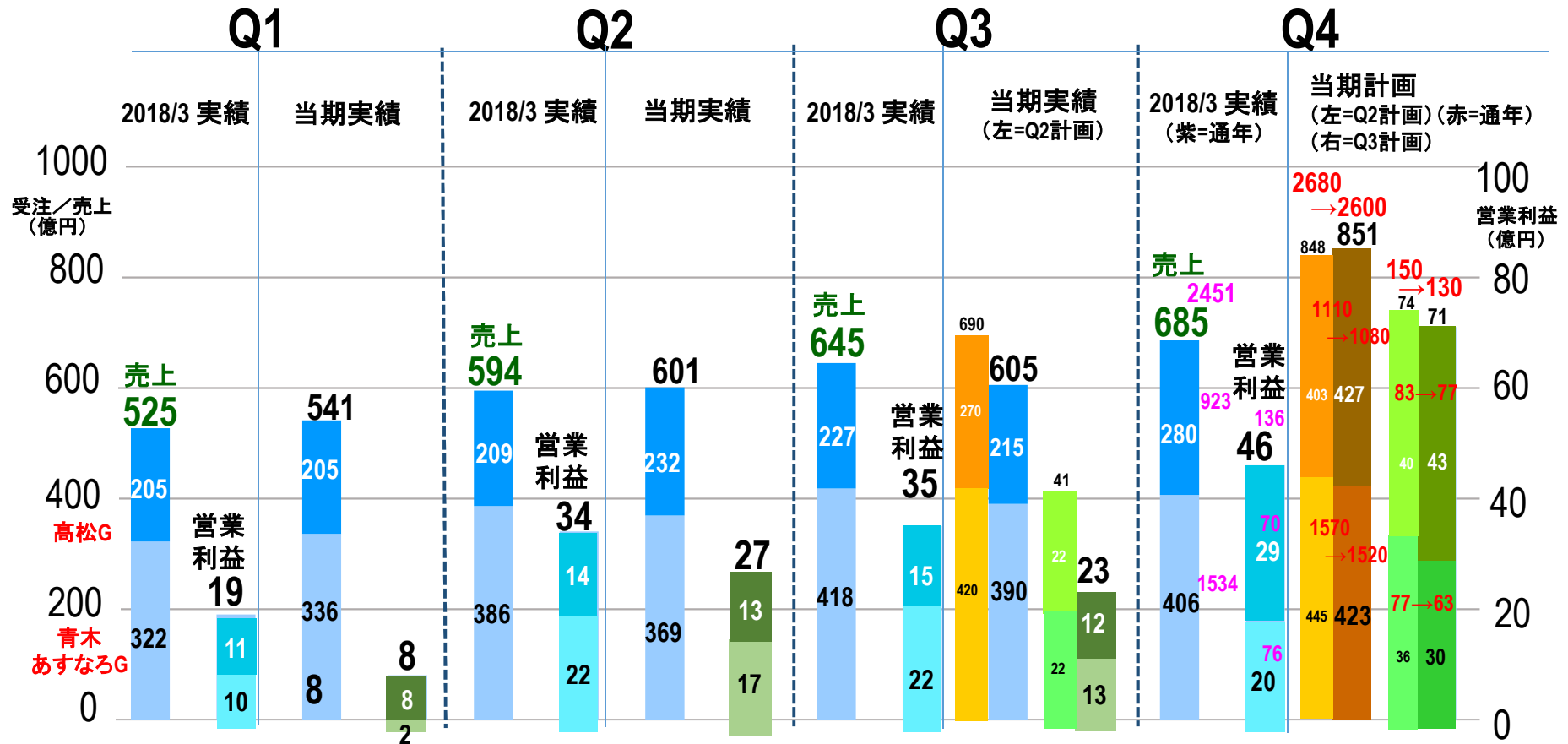
営業利益(連結)の対前年差異説明

1. 営業利益は前期の89.4億円から59.6億円に29.7億円減少。
2. 売上高は0.9%(16億円)減少し、売上総利益も11億円減少したことが第一の理由。
3. 高松Gの売上総利益は5.4億円増。高松建設単体は売上高、売上総利益率ともに減少したが、新たにグループ会社に加わったミブコーポレーションの売上総利益10.8億円が加わり、高松Gとしては売上総利益増。
4. 青木あすなるGの売上総利益は16.5億円減。青木あすなる単体が9.1億円減、建築の売上総利益率が昨年度の高収益案件の反動減もありダウン大。「青木あすなるG他社」△7.4億円は、大部分がみらい建設。
5. 販管費は全体で18.7億円の増。
 - 新規加入のミブが9.0億円、TCG USAが0.9億円、両社除くと8.8億円アップ。
 - 高松建設単体は3.2億円の増。(うち人件費増4.8億円)
 - 青木あすなるGの6.4億円の増のうち、青木あすなる単体が4.2億円を占める。うち3.0億円が人件費。



グループ別 四半期別 売上高・営業利益の見通し (連結)

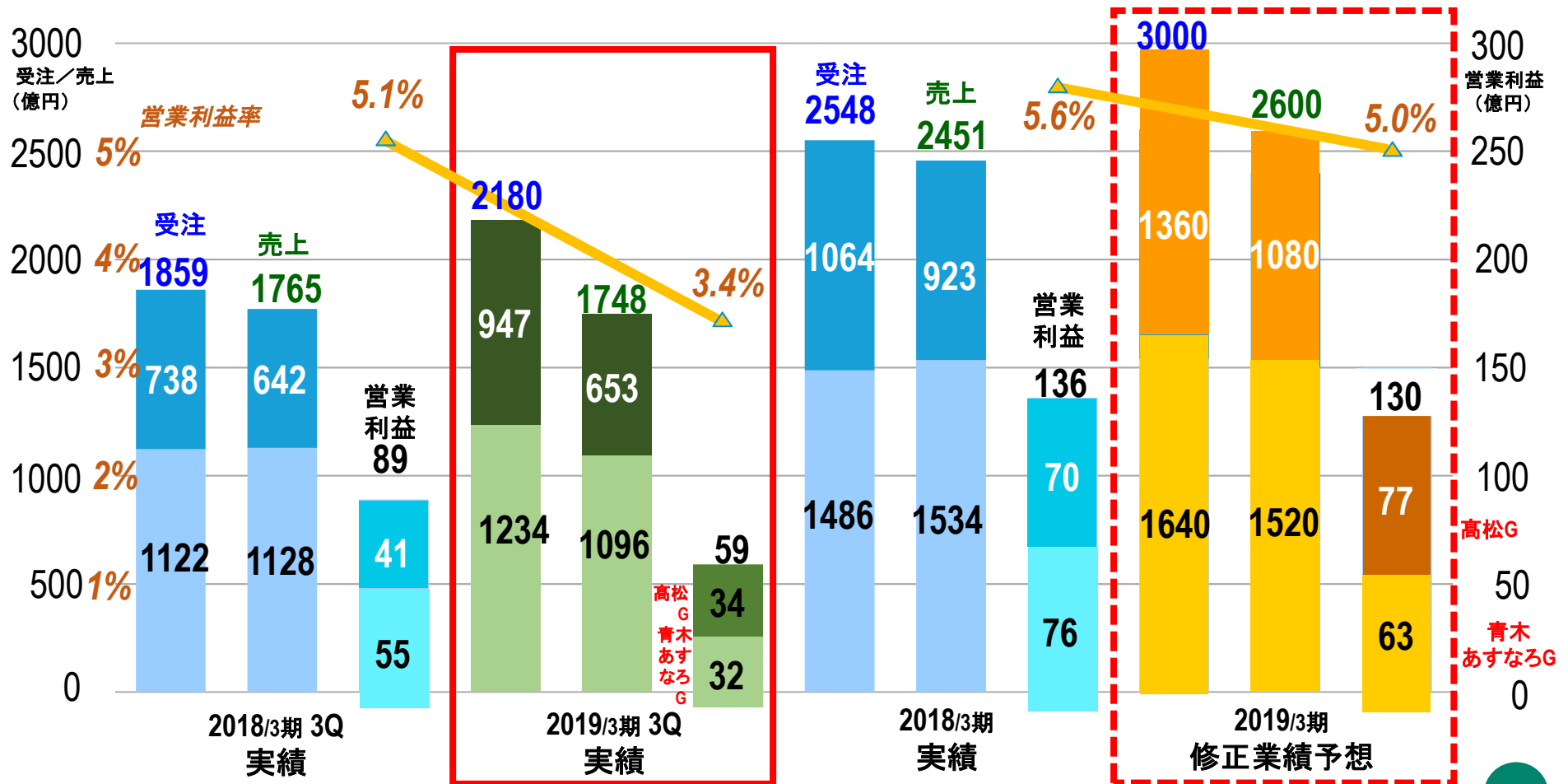
1. 第3四半期は、高松建設、青木あすなろ建設ともに売上高・営業利益とも対前期・対計画で未達。
2. 売上高未達の中心は高松建設、着工時期の遅れ、資材調達難が悪影響。
3. 第3四半期の営業利益は粗利ダウンに加え販管費アップで対計画比大幅減。
4. 第4四半期は、多数の完成工事を予定しており、売上高・営業利益ともに大幅な増加を見込む。
5. しかしながら通年の営業利益予想の150億円は130億円に引き下げ、対前年(136億円)でも減益を予想。



単位:億円。 TCG単体・連結調整等があり、グループごとの営業利益の合算値は全社合計と一致しない。

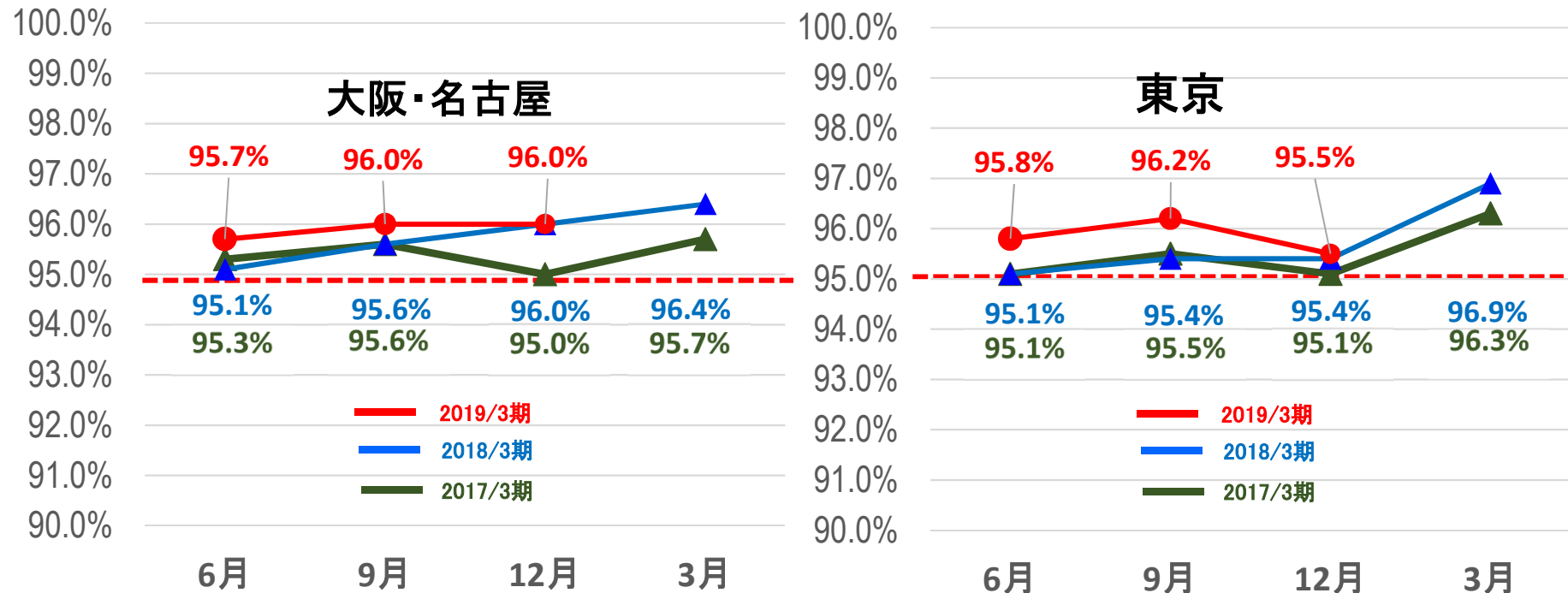
グループ別 受注高・売上高・営業利益の推移と見通し（通年・連結）

1. 受注高は堅調、従来予想の2,800億円を3,000億円に上方修正。高松Gを1,200億円から1,360億円に引上げ。
2. 売上高は高松建設のダウン中心に従来予想2,680億円から2,600億円に予想を引下げ。
3. 営業利益は、従来予想の150億円から、第3四半期の未達分を差し引いた130億円に引下げ。
→ 高松Gは83億円から77億円に、青木あすなろGは77億円から63億円に引下げ。
4. 純利益予想も従来の83億円から72億円に引下げるが、一株配当は従来予想の60円を堅持。



高松エステートにおける高松建設施工物件の入居率

1. 東京・大阪ともに、入居率は18年12月も95%以上を維持。
2. 東名阪・都心部の賃貸マーケットは底堅い動きが継続していると考える。
3. 東名阪・都心部でも、将来的には空き家が増加するとの見方もあるが、高松建設が注力している主要駅近辺に関しては、足元の需要は堅調。



定義 「大阪・名古屋」=大阪府、京都府、兵庫県、名古屋市

「東京」=東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県

「入居率」=各四半期末時点の高松エステート(大阪、東京)が管理している高松建設施工物件の入居戸数

÷各四半期末時点の高松エステート(大阪、東京)が管理している高松建設施工物件の総戸数